

ふれあいの里グループホームおびひろ緑ヶ丘
(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194600458		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホームおびひろ緑ヶ丘 1F		
所在地	帯広市緑ヶ丘8丁目1番24		
自己評価作成日	平成31年1月7日	評価結果市町村受理日	平成31年2月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kan=true&JigyosyoCd=0194600458-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設からもうすぐ2年目を迎えます。開設時には、多くの不安を抱えながら運営を行ってきましたが、職員との話し合いを通じて不安が解消できる体制づくりを始めています。まだ地域に貢献できる施設としてのPR活動が少なく地域の方々に周知されていないことが現在の課題であり、それを改善できるよう情報を発信していきたいと思います。事業所の理念の中にある、その人らしさを大切にするケアを実現し、入居者様に寄り添った介護ができるよう管理者・職員それぞれが研鑽を重ね、成長できる事業所になるよう歩んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里グループホームおびひろ緑ヶ丘」はバス停から近く、JR帯広駅から車で10分ほどの静かな住宅地にある2ユニットの事業所である。近くには美術館、動物園、緑ヶ丘公園などがあり豊かな自然環境に恵まれている。平成29年に開設し、地域との絆を深める理念に沿って管理者は積極的に地域と関わっている。地域住民に事業所で暮らす利用者の理解が深まるように、近隣にある施設サービスの利用で住民と交流できる機会を考えている。また事業所内に「地域交流室」を設けているが、地域住民と交流できる方法も検討している。運営推進会議では防災の取り組みや、大型ロボットとの交流が利用者に癒しや症状改善に効果的な様子などを報告している。事業所内では内外の研修体制を整えるとともに、個人が学びたい方法(eラーニング)を採り入れており、報告書に管理者がコメントすることで学ぶ意欲を高めている。昨年より記録類をパソコン処理で共有し、職員はタブレットの使用でケアチェックや日々の記録を入力し、効果的に活用できるように取り組んでいる。開設2年目を迎える状況で利用者の個別の意向に沿って可能な限り対応している。特に誕生日にはプレゼントの買い物で選んで貰ったり、競馬場や行きたい場所に出かけるなど利用者の個別のニーズに沿ってきめ細かなサービスを提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
			3. たまにある			3. たまに
			4. ほとんどない			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない			4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が			
			2. 利用者の2/3くらいが			
			3. 利用者の1/3くらいが			
			4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・入口玄関やリビングなどに、ホームの理念を掲示しています。全職員が企業理念、ホームの理念を理解している状況とは言い難く、その都度理念を再確認するよう伝えています。	地域密着型サービスの視点を入れた事業所理念を掲げ、職員の採用時に企業理念とともに事業所理念を伝えている。ミーティングの際に理念に触れて共有し、職員は利用者を尊重しながらケアの中で感謝の言葉を添えている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・町内会に加入し、清掃活動等の行事には積極的に参加しています。その中で町内会の方々との交流を通じて、事業所への理解を深めるため働きかけを行っています。	町内会回覧板を利用者と一緒に近所に届けたり、散歩中に住民と挨拶を交わし、花の提供を受けることもある。保育園児のプレゼントにお菓子を手渡し楽しい交流になっている。誕生日には数名のボランティアが小道具を持ち込み民謡を楽しんでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域の方々より、認知症についての相談を受けた時などには、わかりやすく説明するように努めております。ホーム内に地域交流室を設けているが、まだ地域の方々に活用される空間にはなっていません。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2か月に一回、運営推進会議を開催しております。町内会長様、民生委員様、地域包括の担当者様、ご家族様に参加して頂き、各フロアの様子や、職員の現況等を報告しております。頂いたご質問には、耳を傾け、日々のケアの向上に努めて取り組んでいます。	全家族にテーマを記載した会議案内を送り、行事、外部評価のほか、昨年の地震対応の話題など有意義な意見交換となっている。地域包括支援センター職員の紹介でボランティア導入につながっている。議事録のほか、サービス評価の結果も送付している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・自治体からのメール等は常にチェックし、通達には必ず目を通しています。介護保険課、保護課には月に一度は、訪れる機会があり、良好な関係を築けるようにしています	市からの通達のほかに、報告書に盛り込む事例の範囲について確認している。管理者は事業所集団指導に参加したり、市の介護保険事業計画の市民意見交換の会議に参加している。高齢者認知症に関する相談窓口として住民の相談を受けている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・平成30年4月より、事業所内で不適切ケア防止委員会を設置し、より良いケアを実現できるよう活動しています。委員からの事例発表や予防・防止に関する取組み等から事業所としての方向性を提案しています。委員会後には、議事録を作成し、職員周知に努めています。	管理者と職員2名が構成委員となり、3か月ごとに会議を開催し、拘束となる事例の有無を確認している。拘束をしないケアに取り組み、内部研修で利用者の言動を抑える言葉の意味を話し合い共有している。身体拘束廃止マニュアルを職員に配布し、具体的な禁止行為も理解している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	・虐待が起こりうる可能性があることを自覚し、虐待や不適切なケアを行わないようにを内部研修、外部研修に参加し知識を深めています。当日参加できなかった職員には、後日、資料を配布しております。			

ふれあいの里グループホームおびひろ緑ヶ丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・権利擁護に関する制度の理解について、全ての職員が理解しているとは言えない状況であります。研修は実施したが、職員が理解できたのか、疑問が残っています。理解できなかった職員には個別で説明する時間を設けています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約は管理者が主に対応しています。利用者とは、契約前に面談し、利用者やご家族が抱えている不安を尋ね、入居後から安心して暮らしていただけるように、説明しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・利用者の要望などは、ご家族が来設された時などに、伝えております。またご家族からの要望に対し、ホームで出来る対応を検討し、改善できる部分は即対応できるようにしています。	家族の意見について対応を話し合い、パソコン上で共有している。家族の些細な個別の意向なども更に把握が必要と考えている。通信を発行しているがユニットに差があり、回数増や個別のメッセージ欄などの工夫を考えている。	家族の個別な思いを把握するために、職員の気付きも含めて利用者ごとに記録で共有できるような工夫に期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・会議、申し送り時などで、職員の意見を聞く機会を設けています。改める事柄があれば、申し送りノートに記載し、職員に周知しています。法人としての対応が必要な場合は、管理者から本社へ報告しています。	各ユニットで職員の意向を汲んで参加しやすい時間帯に会議を開き、ケアの方向性や業務の見直しで意見を交換している。ユニットの管理者は個人面談や業務中に職員の意見を聞いている。物品整理など職員は業務を分担して運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職員の経験年数や、技量に配慮し、楽しく仕事ができる環境を整えたいと思っているが、管理者業務が多忙であり、職員の思いを汲み取る時間の確保が難しいですが、適宜職員の声を聴けるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職種や経験に応じての年間研修計画があります。法人内で資格取得制度があり、向上心のある職員には、スキルアップのため制度を利用するよう、促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・十勝高齢者GH協議会に入会し、研修等に参加しています。交流を深めて、情報交換できる関係の構築に努めています。同一法人の管理者とは、月に一度月例会があり、その場でも情報交換を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・契約前には、面談し、ご本人が抱えている不安を解消し、ホームでの生活を安心して過ごしていただけるように、関係づくりを心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・契約前には、ご家族様の意向や思いに耳を傾けるよう努めております。入居者様が安心して生活が送れるよう、ホームでは、どのようなことができるかを、説明する時間を設けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居前には、新入居者様の情報を職員に周知しております。その中で、職員の意見を聴く機会を設け、どのような支援ができるかを、検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・入居者様のご自身で出来ることと、出来ないことを把握して、入居者様らしい生活が過ごせられるように、職員同士で情報共有している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会時など、入居者様の近況を報告しております。また、入居者様のご家族の方々の健康状態も尋ねることもあり、ホームとご家族様で入居者様を共に支える関係性の継続を目指しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・入居者様のご友人などの面会が、時々あります。居室等で会話を楽しんで頂けるように、配慮しております。遅い時間での面会にも対応しており、他入居者様の迷惑にならないよう配慮しています。	友人、知人の来訪やフラダンス教室を引き継いでいる生徒も訪れている。家族とお墓参りや外食に出かけている。誕生日のプレゼントで本人が欲しいものを選ぶように同行したり、競馬場で馬と触れ合うなど個別の意向に沿って対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・入居者様同士で、会話を楽しめるように、配慮しています。トラブルになりそうな場合には、職員が介入し回避しています。各入居者様が孤立しないよう、レク活動も随時行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了された後、本人・家族へ訪問し現在の状況を確認しています。退去後に亡くなられた方もいらっしゃるが、ご家族へのフォローを忘れず、今後も相談・支援が行える関係が継続できるよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・ご自身の思いを、伝えられる入居者様が多く、その思いをできるだけ実現できるように、支援しております。思いを伝えることが困難な入居者様には、本人本位を優先し、こちらの思い込みで介護を行わないようにしています。	ほぼ会話ができ、特に誕生日には本人の希望を聴き取り可能な限り対応している。担当職員がセンター方式(B-3)シートなど変化を赤字で記載して共有し、6か月～1年ごとに更新している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居者様との会話を通じて、生活歴の把握に努めております。また、ご家族様より、慣れ親しんだ習慣を尋ねて、より良いサービスが提供できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・入居者一人ひとりの介護記録を記入する際には、入居者様の状態や、発言等を記入しています。今後のケアに生かせるような、記入を心がけております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・日々のケアの中で感じたことを、ミーティングの際に検討しております。チームとしてケアの統一を図り、互いに情報共有ができるように議事録を作成し、閲覧できるように、しています。	3か月～6か月ごとに計画を見直し、モニタリング、評価を行い、会議で確認して更新計画を作成している。記録類はパソコンで処理しているが、介護計画を意識して日々の記録ができるように職員はタブレット入力の作業を進めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・平成30年7月より、介護記録は手書きから、タブレットへの入力へと変更になっています。タブレット導入後は記録記入する時間が減少し、余った時間を入居者様とのコミュニケーションの時間に充てています。タブレットになったことにより日々の状況が瞬時にわかり、情報共有するツールとして活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・入居者様の要望に対しては、一日の予定にとらわれず柔軟に対応しています。また、ご家族様からの要望にも、柔軟に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	KP以外のご家族・ご親戚の来設もあります。来設時にその方々からも入居者様の情報を収集し、安心した生活ができ、住み慣れた地域の方々との交流が継続できるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・協力医療機関の往診が月2回あり、その際には、体調の変化などを伝えています。入居者様が伝えきれない体調の変化は、こちらから補足し、伝えています。	協力医の訪問診療を全員が受けている。内科以外のかかりつけ医を継続し、必要に応じて職員も同行したり、送迎をしている。受診記録はパソコンで処理し、利用者ごとに抽出して経過を把握している。	

ふれあいの里グループホームおびひろ緑ヶ丘

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・往診は月に2回。訪問看護も月2回、協力医療機関の帯広記念病院より診察を受けています。職員は日々のケアの中で、入居者の体調の変化を観察し、往診等で相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入居者様が入院された際には、週に1～2回は、病院に足を運び、様子をうかがっています。医療機関と連携し、早期に退院が可能かどうか、協議しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・契約時には看取り介護の指針を説明し、理解いただいています。入居者様の状態の変化により、終末期ケア移行時には、入居者様、ご家族の意向を確認し、協力医療機関と連携し最期までその人らしく過ごせるよう、職員教育を行っています。	看取りの対応を含めた重度化対応指針を利用開始時に説明し、終末期の希望も聞いている。重度化から状態の変化に伴い、関係者で方針を確認している。食事が摂れないなど医療行為が必要な場合は入院方向になっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・急変時マニュアルを手に取りやすい場所に設置しています。新規職員入職時には、マニュアルを理解するよう伝えています。年2回 避難訓練を実施し、災害時にパニックに陥らないよう訓練に臨んでいます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・非常災害対策計画に基づき、職員が行動できるようマニュアルがあり、それに基づいた行動が実践できるよう指導しています。平成30年12月にはこの地域の指定避難場所の緑丘小学校に視察に出向き、トイレ等の設備を確認し、避難時の担当の教頭先生より説明いただいています。	昨年は8月に防災会社の協力で自主訓練を行い、9月の地震後に避難場所を見学し受け入れ態勢を確認している。12月には消防署立ち会いで日中の地震を想定した訓練を行い、対応についても確認しているが住民の参加は得られていない。冬期の対応も含めて備蓄品を整備している。	夜間を想定した避難訓練を消防署と住民の協力のもとに、実施できるよう期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・人生の先輩として、尊敬し、失礼がないような接し方を心掛けています。	不適切ケアの研修で接遇を含めた言葉使いや対応を話しあう機会がある。申し送りはタブレットで確認するため個人情報を言葉にして他者に聞かれる事はない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・入居者様から発せられることばに耳を傾けて、思いを受け止めて、些細な事柄でも自己決定ができるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・食事時間は決まっているが、職員の都合を優先せず、入居者様に合わせた食事を提供しております。入居者様が望んだ活動が行えるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・訪問理容サービスを入居者様全員受けられております。パーマをかけたり、髪染めの施術を受けている入居者もいらっしゃいます。身だしなみは、自立されている入居者が多く、おしゃれを楽しまれております。		

ふれあいの里グループホームおびひろ緑ヶ丘

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・楽しく食事を召し上がって頂けるように、食事の席や、職員の配置に気を配っています。食事時には、好物や好きな味付けを尋ねたりしています。調理、お盆拭きの軽作業を、お手伝いして頂いています。	食材は定期搬入されるが、行事食としてサンドイッチ、おでん、焼きそば、ハンバーガーなど楽しめる企画をしている。個別の支援で食べたい店や食材を提供している。外食で回転すしや屋外で焼き肉パーティーを開催している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事量、水分摂取量の記録を体調の記録に記入しております。水分摂取量が低下している入居者様には、随時水分摂取できるよう、心掛けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・年に1度、無料の歯科検診を受けられています。口腔ケアが難しい入居者様の中には、個別で歯科医師、歯科衛生士の指導、助言を受けられています。また、職員にも指導、助言を頂き、ケアに活かしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・出来るだけトイレで排泄ができるように、支援しています。排泄のタイミングを検討し、羞恥心に配慮した介助を心掛けています。	タブレットに排泄の記録を入力し、職員が情報を共有している。時間経過を確認し適切なトイレ誘導でタイミングを逃さない支援をしている。夜間もトイレに誘導し就寝時に失敗しないようサポートしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・便秘予防のために、オリゴ糖を水分に溶かして、提供しています。水分を多く摂取できるように、工夫し、併せて、ラジオ体操等の運動の参加を呼び掛けています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・入浴日を各入居者様で固定しています。入浴日を認識されている入居者様が多く、入浴を楽しまれております。体調不良時には、清拭を実施し、清潔の保持に、努めています。	午前でも午後でも入浴可能で一人平均週2回の入浴をしている。利用者により体調によってはシャワー浴となる日もあるが基本は湯船に浸かって歌を歌ったり職員と会話を楽しんでいる。シャンプーの苦手な利用者にはシャンプーハットで支援し苦手が克服できている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・1日の過ごし方は入居者様の生活習慣を優先しています。あまり休息が取れていないときには、休息して頂いています。それぞれの生活リズムに応じた対応をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・事業所の服薬マニュアルがあり、常にダブルチェックで確認する体制を整えていますが、誤薬、落薬の事故も起きており、薬を飲み込み終えるまでの確認が疎かになっており、都度の改善を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・家事等は、積極的にお手伝いして頂ける入居者様が多いです。お手伝い頂いた後には、感謝の言葉を必ず伝えるよう、職員に指導しています。		

ふれあいの里グループホームおびひろ緑ヶ丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・入居者様単独での外出は無く、ご家族同伴での外出が主です。外出の意向があれば、望みが叶えられるよう、入居者様・ご家族と調整しています。	日々の散歩の他に河川敷の桜見物、緑ヶ丘公園散策、動物園、猫カフェ、ペットショップ、競馬場、買い物、カラオケBOXなど時間の取れる限り行きたい場所に行けるよう支援をしている。冬期間の通院でも車窓から景色を眺めて気分転換をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・少額の金銭を持ち込まれている入居者様が1名いらっしゃいます。入居者様自身で買い物に出掛けられたこともあります。自己管理出来ている入居者様は1名のみで、他入居者は自己管理が困難であり、金銭の所持はない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・携帯電話を所有している入居者様もいらっしゃいます。遠くにお住まいの親類の方と定期的に連絡を取り合っています。ご家族に連絡して欲しいと訴える入居者様には、要件を尋ね、必要に応じ、通話できるような体制にしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・トイレは、一目でわかるよう、表示しています。四季を感じられるよう、花や飾りつけを施し、明るく、清潔感があり、居心地の良い空間づくりを目指しています。	落ち着いた温かみの感じられる色や素材の共有空間で台所からも見守りやすい造りになっている。加湿器や空気清浄機で適温適湿に保たれ安全な床暖房で快適に過ごしている。利用者同士の笑い声が聞こえて安心して過ごせる共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・入居者様は、リビングにて過ごされている方が多いです。ご自身のお話をされたり、職員との会話を楽しまれております。会話を楽しまれず、居室で過ごされる入居者様にも配慮し、孤立しないよう、心掛けています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室内には、入居者様が以前住まわれていた家具等を、持ち込まれている方々が多いです。殺風景にならないよう、ご家族が写真等を飾られていて、各自個性溢れる居室になっています。	あらかじめベッドは用意してあるので、それ以外の馴染みの物品を持ち込み自分らしく暮らせる居室になっている。どの部屋も温湿度計があり、利用者ごと好みの室温設定ができる。部屋にはテレビ、タンス、加湿器、家族の写真や花、手芸品が置いてある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・台所には、柵を設置しているが、開放しており、入居者様が台所に自由に出入り、調理や食器洗い等の、お手伝いして頂ける環境になっています。		

ふれあいの里グループホームおびひろ緑ヶ丘
(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194600458		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホームおびひろ緑ヶ丘 2F		
所在地	帯広市緑ヶ丘8丁目1番24		
自己評価作成日	平成31年1月7日	評価結果市町村受理日	平成31年2月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0194600458-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

フロア内の装飾は、利用者と一緒に作成し飾るようにし季節を感じて頂けるよう工夫しています。毎日を楽しく、笑顔で過ごせるよう行事活動や個別にも希望を伺いながらさまざまな人とのふれあいを大切に1人1人の安心できる「家」となるよう支援しています。新しい家族となった犬型ロボット「コロちゃん」も大いに癒しとなり、認知症状が進行しても穏やかに自身の思いを自由に表現でき充実した毎日を過ごして頂けるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時、職員全員で話し合い理念を策定し掲示しています。常に穏やかで快適な生活ができるよう全職員がケアに取り組んでいます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、可能な限り行事等の参加に努めています。散歩に出かけた際には近隣の方々に挨拶をしたり会話を持つよう心がけています。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通じて町内会のご意見や民生委員の方から質問や相談を受ける事があります。地域包括の方にも協力をお願いし認知症の方への理解や支援にも働きかけています。		
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し入居者様の状況や日常生活の様子、行事の取り組みや職員の状況等を報告しご意見を頂きサービスの向上に努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村からの情報は主にメール等で送られその都度確認しています。介護保険関連の事には直接出向き相談したり状況を伝えたりし協力関係を構築できるよう努めています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	戸口の施錠は、ほぼ行わず解錠するようにし行動制限をしないよう実践していま。利用者の状態によってごくまれにやむおえず施錠する場合には、ご家族にもご理解頂いています。		
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切ケア防止委員会を設置し、対応の見直しを行いながら、毎月の職員会議の中でも取り上げそれぞれが意識しながら知識の向上にも努めています。		

ふれあいの里グループホームおびひろ緑ヶ丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学ぶ機会を持っており、成年後見人制度の活用の必要性を話し合い活用できる支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約事項を説明し疑問や不安等がないか尋ね理解と納得をして頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活のご様子や変化等は、面会に来られた時や毎月のお便りでその都度お伝えし、ご意見やご要望については早期にミーティング等で検討し実施できるようにしています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見は、内容により、本社に相談しています。定期的に職員の意見や提案を聞く機会を設け1人1人の思いの反映に努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績を把握しその中で得意な事を実践できる環境を整えています。資格を所持していない職員には資格支援制度を設け、意欲の向上に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数や資格に応じ、内・外の研修を受ける機会を設けています。毎月の会議の中でも対応の仕方や緊急時のシュミレーション等を行うようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会に所属しており、研修会に参加し懇親会がある場合には職員にも多く参加を呼びかけ、他GHとの交流の機会を持ち情報交換をする等サービスの向上につながるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談の際、必ずご本人とお話させて頂き不安な事はないか、入居後はどんな生活をしたいのかを確認し安心して入居して頂けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用の際に困っている事、心配な事をお話して頂けるよう努め入居後も常に状況をお伝えし安心して頂けるよう関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談等で得た情報を事前に全職員が共有できるよう書類を作成しています。入居後も不安なく、その人らしく生活していけるよう支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自身でできる事とできない事を見極め、毎日の生活の中でさりげなく支え共に生活している者として信頼関係を築けるよう努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活のご様子をその都度お伝えしながら、現状を理解して頂き、これまでの家族間の関係を保て、共に支えていけるよう支援しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から続けていた楽しみ事等ご家族にも協力して頂きながら継続をしたり、行きつけのお店等も利用していけるよう支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で関係性を把握し、職員が間に入りながら対話を楽しんだり、一緒にホーム内の作業をする事で支えあえるような支援が継続できるよう心がけています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も新しい居住場所(病院等)へ訪問する等、情報交換を行い支援を継続しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にこれまでの生活状況を把握し、入居後も本人やご家族に伺いながら意向の把握に努め、職員全員で共有できるよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族や関係者の方々に細かく情報提供して頂き、これまでの生活環境やなじみの暮らし方の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調や生活状況を細かく記録し、できる事は自身で行えるよう状態を把握し日々の変化を共有できるよう努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族に要望等を伺い、カンファレンスを行っています。その中から介護計画に反映でき、その人らしく1人1人に合ったケアが行えるよう作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常的な生活の様子や体調の変化、ケアの実践や結果については、個別の記録に記載し送りノート等も活用しながら、情報共有を行い介護計画の見直しに活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対応し、要望においても可能な限り対応できるよう努めています。共有スペースでの決まり事は、極力なくし柔軟な対応ができるよう心掛けています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣施設からの慰問や保育園児との交流の機会を持ち、様々な方々と接し楽しみ事を増やせるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による往診や訪問看護を全員受けています。かかりつけ医の通院も継続できるよう支援し、緊急時等は、協力医療機関以外への通院対応も同行し対応しています。		

ふれあいの里グループホームおびひろ緑ヶ丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に2回健康相談として、協力医療機関の看護師が来訪。その際日常生活の様子や体調の変化等を報告相談しており、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ホームでの状況をお伝えし看護師や医師にも経過や状態を伺い、情報交換しています。退院しても安心して生活できるよう日頃から病院関係者とも連携を図り、関係作りに努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	個別にご希望を伺い、終末期をどのように過ごしたいかな対応を希望するかを伺っており、協力医療機関に協力をお願いし連携を図れるよう日常的に情報共有しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署職員による救命救急講習の緊急マニュアルの周知及び救命救急講習の受講等、緊急時の対応が的確に行えるようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回日中と夜間を想定した訓練を実施し、無事に避難誘導ができるよう努めています。今後は、地域の方々にもご協力をお願いし少しずつ体制を整えていきたい。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理解力の低下が顕著な方もおられ、その方がわかる言葉で丁寧な関わりを心掛けプライバシーにも充分配慮しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の様々な場面で些細な事でも希望を伺ったり、困難な場合は、どれかを選んで頂けるような場面を作ったりしながらできるだけ自身で決められるよう働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	カラオケや手作業を好む方には、楽しんで頂ける時間を提供したり、競馬が好きな方には毎回番組を見て頂く等の支援を個別に行い1人1人のペースを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1人1人の好みを把握しながら、お手伝いさせて頂き、その人らしさを大切にご希望に添えるよう支援しています。		

ふれあいの里グループホームおびひろ緑ヶ丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1回希望を伺いながら「おでんの日」等好きな物を提供する日を設け継続しています。体調面にも考慮し盛り付け方や量等にも工夫し、行事等の際は季節を感じられるよう心がけています。食器拭きは、利用者のお仕事のひとつとして取り組んで頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、栄養士が作成したものを元に調理しています。食べやすいよう一口大にカットしたり、量も考慮し提供しています。水分量も確保できるよう好みも取り入れるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアを促しその方の状態に応じて介助しています。異常が見られる時には、早めに協力医療機関の歯科往診をお願いするようにしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄状態を把握し、多動となったり等の状況に応じ、個別の対応を行い失敗の軽減と自立に向けた支援をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を朝食前に提供し、毎日水分も定期的に提供し摂取して頂いています。体操や廊下運動等の運動も体調をみながら勧めています。便秘がちな方には、個々に応じコントロールできるよう援助しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	血圧が午後から高くなる方には、午前に入浴して頂いたり、体調や気分に合わせて入浴して頂いており入浴中も対話を持ちながら入浴を楽しめる様になっています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床後起きてこられる方もおり、職員と一緒に過ごす事で安心できる方には、時間を共有したり状況や習慣に合わせ落ちつく場所で安心して休める様支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬をはじめ、薬の変更や外用薬の対応、用法用量の理解と副作用について周知状態の変化を共有し担当医や看護師に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやもやしの髭とり、食器拭き等日常生活においての作業やパズルやドミノ等のレクリエーション活動を行い、その方の楽しめる内容を検討し役割や楽しみ、気分転換ができるよう支援しています。		

ふれあいの里グループホームおびひろ緑ヶ丘

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望を伺いながらできるだけ戸外に出かけられるよう努めていますが、冬場は少なくなってしまいます。普段行かない場所には、ご家族にご協力をお願いしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が金銭管理は困難であり、購入はご家族又は、ホームで立替で対応しています。現金を持っていることで安心できる方もいますが、トラブルとなる事も考慮し所持はしないようにして頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望された時に介助にて電話をしたり、手紙が来た時には返事を書く等の支援をしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間において不快や混乱を招く事のないよう特に音、光、温度に対し臨機応変に状況に見合うよう配慮しています。季節を感じて頂けるよう、その季節らしい飾り物を飾る等の工夫をしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りで過ごしたい時には、居室で過ごして頂いたり、廊下の椅子等で休んで頂いたりしています。気の合う方々で楽しく過ごせるようソファや食事時の席等を配慮しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と相談しながらなじみの物や好みの物を置き、心地良く過ごせるよう工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の視点に合わせ「できる事」「わかる事」を活かし、できるだけ自立し安全で安心な生活が送れるように工夫しています。		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホームおびひろ緑ヶ丘

作成日：平成 31年 2月 7日

市町村受理日：平成 31年 2月 8日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	年2回の避難訓練を実施しているが、夜間を想定した避難訓練は未実施である。町内会等の地域の方々にも参加して頂き、避難訓練を実施し、問題点を検証し、災害時等に役立てる。	夜間帯を想定した避難訓練の実施。夜勤者が各フロア1名ずつの配置で通報。避難誘導を行う。	消防署・町内会等に避難訓練の趣旨を理解して頂き訓練への参加を依頼する。また近所の住民の方々にも参加して頂けるように、周知する。	6か月
2	10	ユニット毎でホームの生活を伝えている、お便りの発行の頻度に差がある。お便りの内容を工夫し、ユニット間の頻度の差を解消する。	定期的にお便りを発行し、ご家族に喜んで頂ける内容のお便りにしていく。	発行を担当する職員への負担が大きく、負担を緩和するため、居室担当者が担当する入居者のコメントを考え発行担当者に提出する。日常の様子や各種行事等の写真を載せつつ、簡潔にまとめたものとする。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。